

# 会 報

1978. 3. No. 1

## 設 立 記 念 号



社団法人 広島県測量業協会

広島市基町10-3(自治会館内)

TEL. 0822 21-2666  
28-4899

# 目 次

## (社) 広島県測量業協会設立記念式典について

式 辞	……………	迫 田 利 芳	……………	1
祝 辞	参議院議員	増 岡 康 治	……………	5
祝 辞	中国地方建設局長	山 根 孟	……………	6
祝 辞	広島県知事	宮 沢 弘	……………	9
祝 辞	広島県議会議長	西 田 修 一	……………	11
祝 辞	広島県市長会会長	荒 木 武	……………	13
祝 辞	(社)全測連副会長	伊 藤 勝太郎	……………	15

## (社) 全国測量業協会中国支部長を辞任して

松 村 恭 二	……………	18
---------	-------	----

## (社) 広島県測量業協会の発足にあたりて

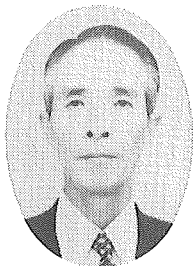
坂 手 康 則	……………	20
---------	-------	----

偶 感	……………	栗 栖 一 登	……………	22
新入社員教育について	……………	松 村 恭 二	……………	24
念には念を押し	……………	田 村 善四郎	……………	29
おらが春	……………	高 島 勝 士	……………	31
主なる行事	……………			35

— 付 —

広島県測協役員及び会員名簿	……………	48
---------------	-------	----

## 式 辞



(社) 広島県測量業協会

会 長 迫 田 利 芳

本日ここに全国測量業団体連合会顧問，参議院議員増岡康治先生をはじめ中国地方建設局長殿，広島県知事殿，広島県議会議長殿ならびに各界代表多数の方々ご臨席のもとに，社団法人広島県測量業協会の発会式を挙行いたしますことは私達67会員の等しく感激の極みであります。

わが国の測量は幕命をうけました伊能忠敬が1,800年に着手して，1,821年高橋景保の手によって完成を見た，大日本沿海実測全図がその嚆矢であります。

以来明治・大正時代を経て昭和20年の終戦までは，国土の測量は防衛上の観点から，軍を中心といたしました国家機関の手によって実施されて来たわけでございます。

しかし終戦を迎えまして新憲法が制定されますと，最早測量による国防上の機密などは存在しなくなりますと共に，あの荒廃した国土を復興するためには多数の技術者を要しますところの測量事業が絶対に必要になって来たわけであります。

即ち，今迄のような官直営方式では，そのおびただしい需要の消化は到底不可能となったのでございます。然しながら緊急にこれに対応して消化しなければならぬこの測量事業を正確に且つ効果的に実施するために，政府は昭和24年6月法律第188号によりまして測量法を制定いたしました。

こうして国の機関から民間への外注の方式に転換することになりまして今日に至ったと云うのが我が国測量業界の生い立ちであり、又その歴史でもあります。

その後は経済の高度成長に伴う公共投資の増加と更には民間企業の需要増大などもありまして、私達測量業者による事業量は急激に増加して参りました。

そのために昭和36年6月測量法の一部が改正されまして、測量業者に対する登録制度が定められました。即ち、測量を業として行う者はこの測量法の定めによりまして登録を受けなければならなくなった訳でございます。

そこでこの法の精神を受けた心ある業者は「今からの測量業は単に利益迫及の狭隘な見地に止めるべきではなく、広く全国的視野に立って測量技術の刷新と向上を通じて、体質の改善、強化を図り、以って地域社会に貢献すべきである」と痛感した結果、これを早急に具現するために昭和36年8月建設大臣所官の社団法人全国測量業協会を力強く発足した訳でございます。

爾来、測量業界もご多聞に漏れず経済の高度成長の波に乗りましてめざましい発展を遂げて参りました。因みに昭和51年8月末には非会員を加えた登録業者は5,500数10社と云うような驚くべき数に達した次第でございます。

この様な測量業者の著しい増加と相まって、その測量人口も急激に増加して来ました。また必然的に企業内容のより高度な近代化と精度の向上が問われて参りました。それらに加えてこの不況に起因いたしまして惹起する業者間の連繫と調和をどうすべきか？など、緊急にかつ適切に対処すべき難問題が山積して参った次第でございます。

しかし、今迄のような全国津々浦々の業者が個々別々に加入して組織した現在の全国測量業協会の機構では、これら諸問題の解決は到底不可能だと判断された訳でございます。その結果、この機会に全国を47都道府県毎の組織に再編成して、それぞれが連帯の力を強化した上で、全国測量業団体連合会として結集すべきであるとの決定を見た次第でございます。

つぎに私達広島県測量業界の今日までの歩みにつきまして、簡単にご報告を申し上げたいと存じます。

終戦を迎える大きな引き金となりました、あの無情悲惨な原爆投下によりまして、焼け爛れた広島市を始め県土復興の担い手といたしまして、私達広島県に測量業者が誕生したのは戦後間もない頃でありまして、当時は測量業者とし

ての社会的地位を認められない非常に苦しい生い立ちであったと聞いております。然しながら、この苦境にもめげず測量技術の向上と近代化を図るとともに、業者の増加と相まってその融和と協調に努めながら、遂に昭和37年5月、中国測量業組合なる任意団体の設立を見ました。また昭和39年5月には、冒頭申し延べましたような全国測量業協会の設立の主旨に賛同した中国5県の業者同志が相たづさえまして発展的にこれに加入いたしました。以来13有余年の長いあいだ堅い結束のもとに全国唯一の中国支部を持続して参った次第でございます。

しかしながら、中国支部といたしましてもこの社会的趨勢に対処するためには、大所帯化した組織を県単位の機構に改組して、企業の体質改善と近代化を図りながら連帯の力を結集してきめ細かい地域活動をすべきであるとの決定をした次第でございます。

従いまして私達広島県協議会もこれを受けまして、早速、社団法人広島県測量業協会設立準備委員会を発足させましたうえ、広島県知事許可であるところの公益法人の設立実現のために県ご当局の有効、適切なお助言を戴きながら鋭意努力を続けて参りました。またこの法人設立にあたりましては、既存の広島県協議会会員39社に加えまして、県内の未加入業者全員に対しましても強くこれが参加を呼びかけた次第でございます。その結果、67社の方々のご賛同を得ましたので、法的に必要な書証を相ととのえましたうえ、昨年12月1日に公益法人の設立許可申請書を広島県知事宛に提出いたしましたところ、県ご当局の温かいご配慮によりまして敏速なるご審議を戴きました結果、同月19日付でこれが許可を賜わった次第でございます。

このうえは、私達の社団法人広島県測量業協会が設立の趣意にもとることなく、地域社会の要請とご期待に応えるためには、その社会的な責務と与えられた立場を深く自覚致しまして、測量技術の向上と近代化に切磋商し、業界の良識

と秩序ある発展のため尚一層の精進と努力を重ねる覚悟でございます。

しかしながら、元来経営基盤が脆弱な中小企業の集まりでありますところの私達測量業界は、事業量の拡大増加と適正単価の確立などに関しまして温かいご理解と、力強いご協力を賜わらなければ到底所期の目的を達成することは不可能だと信じます。

したがいまして、豊かで住みよい地域社会建設のための尖兵といたしまして、より一層の努力をお誓い申し上げます私達広島県測量業協会に対しまして、今後とも相変りない御指導とご鞭撻を賜わりますよう、心からお願い申し上げます式辞といたします。

昭和五十三年一月二十日

## 祝 辞



参 議 院 議 員

増 岡 康 治

皆様 ご健勝で五十三年を御迎えのことと御慶びを申し上げます。本日は、広島県測量業協会の公益法人許可祝賀会が御盛会に開催され、心からお祝いを申し上げます。本席に出させて戴きご挨拶を申し上げるのを楽しみにして居りましたが、丁度自民党大会と重なり不本意乍ら参ることが出来ず、深くお詫び致します。昨年七月には皆様の温い御支援を賜わり国政に参画させて頂き衷心より御礼申し上げます。

私も以来半年、臨時国会においては委員会にて質問の場を与えられ、行政府から立法府の一員として第一歩を踏み出し、元気に頑張っています。本年は、政府も十五ヶ月予算を組むと言う超大型の公共投資で景気の浮揚に全力投球の年であります。

総需要抑制の長いトンネルからようやく抜け出せる灯が見えて来た本年こそは、官民相協力して測量業界のご発展と皆様方のご隆盛につながる事が出来ますれば幸いと存じて居ります。私も微力ながら皆様のご協力を賜わり乍ら郷土広島の為にも、貴協会の為にも出来得る限りの努力をさせて頂く所存でございます。どうぞ今後共宜しくお願い申し上げますと共に、広島県測量業協会の益々のご発展と皆様のご多幸を祈念してご挨拶とさせていただきます。

昭和五十三年一月二十日

## 祝 辞



建設省中国地方建設局長

山 根 孟

本日、社団法人広島県測量業協会設立記念式典を挙行されるにあたり、一言お祝いを申し上げます。

ご承知のとおり、四十八年秋の石油危機を契機として、我が国は稀にみる長期にわたる不況に見舞われ、昨年は公共事業の早期執行により景気の回復を図ったのでありますが、十月以後国際収支の不均衡による異常な円高により二兆円に及ぶ第一次補正予算による景気浮揚効果も消え去るという予期しない事態にたちいったのであります。

我が国は今、国内的には円高不況の深刻化と対外的には国際収支の不均衡という二重の課題を抱えております。政府は第二次補正予算と合わせた、いわゆる十五箇月予算の構想のもとに思い切った内需拡大を目指して五十三年度予算を編成しております。その中核は前年度比 34.5 パーセントの大幅な伸び率の公共事業費でありまして、低迷する景気を一挙に回復させる牽引車の役割を担っております。国債依存率は実質 37 パーセント、累積国債発行残高は実に、四十三兆円にのぼることとなりますが、このように財政インフレの危険を冒してまでも、積極大型予算に踏み切らざるを得なかったことは、今日我が国がおかれている経済情勢の厳しさを象徴しているわけであります。

ともあれ、昭和四十八年以来六年振りの大幅な公共事業の伸びであります。



本年度末から来年度にかけて切れ目のない公共事業が執行されることとなったわけですが、発注機関におきましては行政需要に見合う定員の確保が困難な状況にありますので、調査測量の分野で今迄以上に皆様方のご協力をお願いいたしたいわけにあります。

また、最近の環境問題などに見られる住民意識の高まりの中で事業を推進するためには、正確な測量成果に基づいて適正妥当な計画を策定することが大切であります。まして工事目的物を正確に建造するために果たす測量技術の役割りが重要であり建設技術の基本をなすものであることは申すまでもありません。最近の測量技術と機器の進歩には著しいものがあり、精度の向上と能率化に大きく役立っております。また、リモートセンシングなどにみられるような測量技術の新しい分野への進出がみられ、これは広く地域計画環境アセスメントなどに応用されるようになって参りました。このような測量技術の進歩に対応して測量作業規程が改正され、昨年四月から施行されておりますことは皆様ご承知のとおりであります。

しかし、測量業界におかれましては多くの問題を拘えておられるように思うのであります。経営の合理化、技術力の向上を通じて業界の社会的評価を一層高めなければなりません。

皆様方は国民に安全で快適な生活の場を提供する建設事業の基礎づくりを担っておられるわけですが、業務に携わる方々が仕事に誇りと将来に希望を持ち得ることが肝要であります。また、先程申し上げましたように厳しい財政事情のもと国民経済の回復を願って実施せられる公共事業でありますだけにより一層効果的で適正な執行にご協力いただかなくてはなりません。これらの問題解決のためには、官民協力のもとにたゆみない努力が必要であります。

本日、社団法人広島県測量業協会を設立されましたことはまことに時宜を得たものでありまして、ご同慶にたえないところであります。

一步を踏み出されましたことは誠に意義深いものがあり、私どもは当協会の今  
貴協会が益々発展し、設立の趣旨に則り十分その役割りを果たされますこと  
と併せて、会員皆様のご繁栄を祈念致しまして祝辞と致します。

昭和五十三年一月二十日



## 祝 辞



広島県知事  
宮沢 弘

本日、社団法人広島県測量業協会の設立を記念する式典が開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本県の測量業団体は、従来から設立されておりました社団法人全国測量業協会中国支部のもとで、広島県協議会を設けて測量業の健全な発展を図るため種々の活動を続けてこられたわけでございます。

しかしながら、全国組織の下部組織の下ではその活動に限界があるところから、組織を変更する運動を長年にわたって続けてこられました。すなわち、各県の測量業団体を独立した社団法人とするとともに、各県のすべての団体が参加して全国測量業団体連合会を設立し、その活動を一層充実発展させようとするものでございます。

昨年になりまして、関係者の方々の御努力がようやく実を結び、中央におきましては、社団法人全国測量業団体連合会への改組が具体化するとともに、本県におきましては、従来の広島県協議会を発展的に解消して、社団法人広島県測量業協会を設立することとされました。

以上の経過を経まして、本協会が昨年12月19日正式に設立の運びとなりましたことは誠に御同慶に堪えないところであります。

申すまでもなく、測量業は国土の開発・保全を図るための礎となる重要な業

務でございます。

本協会設立を契機としまして、広島県内における測量業の健全な発展を図り、  
県土の開発・保全並びに県内産業の進展に今後ますます良い成果をおさめられ  
るよう期待する次第であります。

終わりに、本協会の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

昭和五十三年一月二十日



## 祝 詞



広島県議会議長 西 田 修 一

一言お祝詞を申し上げます。

社団法人広島県測量業協会の設立記念式典が会員並びに関係者多数ご参会のもとに盛大に挙行されますことは誠に慶祝に堪えません。

ここに役員並びに会員各位の今日までのご労苦に対し衷心より敬意を表します。

さて当協会におかれてはこれまで全国測量業協会中国支部として十三年余の長きにわたって国土の開発保全並びにその利用の高度化に尽され、県政の推進に絶大なるご貢献を賜わってきたところでありまして、この機会にそのご功績に対し深く感謝の意を表する次第でございます。

ご案内のとおり我が国は高度経済成長から安定成長への転換期にあって、いわば新しい出直しの時期とでも申す方が適切であるかも知れません。すなわち大量生産、大量消費といった物量の時代から質的向上が重視される世の中へと社会全体の体質改善と発想の転換が求められております。

こうした時代の変遷と共に国民の意識、価値感も大きく変化しておりますが皆さん方におかれましてはこのような社会情勢に対応するため、このたび旧法人を発展的に解消し広島県単位で組織化された公益法人として権威と行動力のある新協会を設立され、測量業務の改善と職能倫理の確立をめざして、その第

後のご活躍に大きな期待を寄せるものでございます。

どうか会員各位におかれましてはこれを機会に心を新たにされ、皆さん方の英知と創造力を結集し、当協会の使命の完遂にますますご精進をいただき、もって県民生活の向上と県勢の伸展のために一層のご貢献を賜われますよう念願してやみません。

終わりに臨み当協会のみますますのご発展と皆さん方のご繁栄を祈念してお祝いのことばといたします。

昭和五十三年一月二十日



## 祝 辞



広島県市長会会長

荒 木 武

本日、広島県測量業協会の設立記念式典が開催されるに当たり、一言お祝い  
のことばを申し述べさせていただきます。

皆様よく御承知のとおり、我が国の測量業が業として成りたつようになりま  
したのは戦後からでございます。それまでは旧陸軍の陸地測量部がほとん  
どの測量を行っておりました。戦後、測量成果の公開や公共事業の進展をはじめ  
とする経済活動の発展を背景としまして測量需要が急増し、測量業者の方々の  
果たす役割りが急速に高まってまいったのでございます。

このような情勢の下で測量業の健全な発展を図るため、昭和36年の測量法  
改正により、測量業者の方の登録制度が新設され、登録を受けていない者は測  
量業を営むことが出来なくなったのでございます。更に、測量業者の相互連絡、  
技術の向上等を目的として全国測量業協会が設立され、広島県内においてもこ  
の協会にそれぞれ加入して、測量業の発展に寄与されてきたところでございま  
す。

このたび、急激な社会経済情勢の変化に対応し、地域の実情に合った測量業  
の発展を図るため、全国的な規模で組織再編成が行われていることは、誠に時  
機を得たものであり御同慶に堪えません。

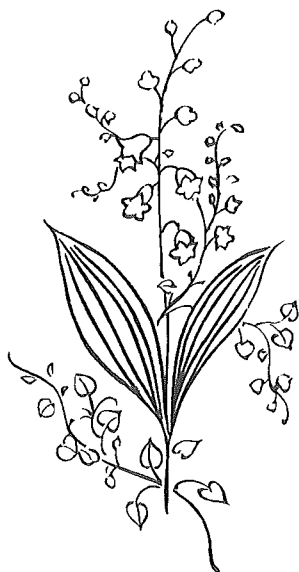
今後、測量業者の方々におかれましては、省力化や測量精度の向上などの技

術面の発展はもとより、経営面での近代化に、広島県測量業協会の果たす役割  
りが大きいものと存ずる次第でございます。

また、当協会におかれましては、広く一般県民の測量相談に応じられるため  
の、無料測量相談所の開設を予定されておりますが、これは、県民の測量に関  
する認識を深めるうえで誠に有益でありまして、是非力を入れてすすめていた  
だきますようお願いするのでもございます。

最後に、広島県測量業協会の会員外の業者が相当数あると聞いておりますが、  
今後は、会員外業者の組織化に努力され、測量業の健全なる発展と測量知識の  
普及を図られるようお願い申し上げます、私の祝辞とさせていただきます。

昭和五十三年一月二十日





## 祝 詞



(社)全測連副会長

伊 藤 勝 太 郎

只今ご紹介いただきました，全国測量業団体連合会副会長伊藤勝太郎でございます。

本日社団法人広島県測量業協会設立記念式典にご招待いただき，かつまた各界来賓多数で列席の中から，ご指命によってお祝詞申しのべる機会を得，誠に身に余る光栄心からお祝い申し上げます。

さて，昭和58年明けましておめでとうございませう。おめでたの二重奏で，協会の皆様方，新春を寿ぐ之に勝るスタートはございませう。

会長さん，役員並びに会員各位の気持が，社団法人化という願望に結集，設立認可，本日の式典となりましたことは，誠に同慶に堪えませう。

広島県測協を一つにまとめ上げた，その心労言葉では表現出来ないうれしきでしょうと，同時に設立経過報告の苦労が偲ばれます。

法人格を持った当協会，会員の社会的地位向上はもとより，すべての対外交渉は知事認可という，他産業が注目する価値観，67社，2,500有余名のパワー今後一層の期待が待たれる訳であります。

全国測量業団体連合会も，52年10月13日発足いたしました。連合会としての発展，活躍，すべて未知数です。

各県測量業協会の存在と価値観，会員としての団結，連合会本来の意志によ

る運営、之等の原則に基づき、牛歩遅々たりとも、各県測協がリーダーである自覚之が一番大切と思います。各県測量業協会発展なくして、測量業並びに連合会を語る訳にはまいりません。

次に、このお席とお話し出来る時間を拝借いたし、中国地区代表、連合会設立準備委員、当協会会長迫田利芳さんに準備委員当時のご苦勞に対し、お礼を申し上げると同時に、全測協から全測連に移行した経過報告を若干いたし、迫田委員8ヶ月間、東京-広島毎月出席した苦勞が少しでも理解されましたら幸甚と存じます。

迫田会長とは、設立準備委員会を通じ、今後の協会は如何にあるべきかで論理を展開し、経営の大小でなく、この職にあるもの大多数の意見が通じる連合会方式に意見一致、前途如何に厳しくとも、各県測協が手を握り、民主的なる県測協多数の意志で我々の前途を開拓しなければ、次の世代にバトンタッチする事が出来ない、連合会の設立は、時代の要請であり、世の中の流れであります。無理に求めなくても自然になります。之を測量業の文化であると、私は確信いたします。之等の根本原則に基づき毎回討議されましたが、正論は仲々むづかしく、左右に揺れ動く委員会を常に正しい初期の目的に軌道修正しながら8ヶ月間汗胆相照した仲でございます。

それでも、全国組織の連合会が如何にむづかしいか、理論でわかっても現実の問題が、熱海全国大会の折でも、連合会設立の運命を握る中国の解答は徹夜で4日朝にわたり、今でも忘れません。話せば一大ドラマ、語りつくせません。測量業の歴史に残る画期的事業の変換でありました。

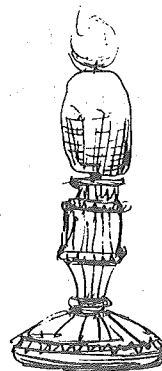
このような難産の末出来ました連合会であります。お互県測協会長の責任としても発展させない訳には参りません。

複雑な今後の世相、目まぐるしく変化する時、建設振興要項一つとりまして大変でございます。既存の生活権、登録権、営業権、連合会でなくては之に

当たる事が出来ません。県測協で処理出来ない問題，連合会は大多数会員のエネルギーで対処する時がきます。

広島県測量業協会と共にその弥栄を祈念いたし，お祝詞を申し上げ私の挨拶にかえさせていただきます。

昭和五十三年一月二十日



## (社)全測協中国支部長を辞任して



松 村 恭 二

先ずもって、広島県測量業協会が昨年末日出度く法人化されましたことを、お喜び申し上げます。

会員の皆様にはご存じの通り、(社)全国測量業協会は昭和52年10月13日その組織を変更し、(社)全国測量業団体連合会に発展的に移行しました。これにともないまして、全測協中国支部も解消したのであります。

振り返ってみますに、昭和37年5月中国四国地域の業者22社をもって、任意団体中国測量業組合を設立して不肖私はその組合長となり、昭和39年4月解散、同年5月業者29社をもって(社)全測協中国支部を設立し、支部長に就任以来13年余になります。その間、わが国の高度成長に即応して、中国地域開発の先駆的役割りを果たすため、支部活動を実施して参りましたが、発足当時を思い出して感慨無量なものがございます。

去る3月15日には(社)広島県測量業協会迫田会長の指導のもとに(社)全測連中国地区協議会が発足し、大変慶祝に存ずる次第であります。その節、私にとりまして過分のおことばを、更に立派な記念品を頂戴して恐縮至極感銘の極みでございます。記念品は池の上に松を配した真鯉と緋鯉の掛軸、家宝として床の間にかけて末長く鑑賞したく存じ居ります。

不肖非才微力にして長年に亘ってその職責を果たすに不行届きの点多々あった

事など反省し、業界の皆さんの温いご理解ご支援を感謝するものであります。

会員各位のご清福を祈って私のごあいさつ、お礼のことばといたします。



## 社団法人広島県測量業協会の発足にあたり



(有)大地測量事務所

社長 坂手 康 則

昭和52年12月、広島県知事の許可による社団法人広島県測量業協会が誕生しましたことは、大変意義深く、喜びに堪えません。この組織作りに迫田会長（発起人代表）を始め、役員（発起委員）の一方ならぬ努力の結晶の結果認可になりました事を深く感謝致します。

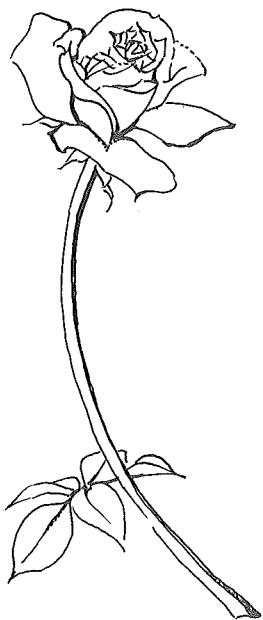
本協会の創立式典には、広島県知事殿、広島県議会議長殿、広島市長殿、他多数の御来賓の先生方々より、測量業務が如何に重要であるか、今後一層技術の向上に勤めて、業界の発展を期するよう祈ってやまない、との御理解ある暖かい励ましのお祝辞をいただき胸の熱くなる感動を覚えました。

これを契機に業者間の結束が強まり、関係官庁の御理解も深まり、関係ある広範の方々より、今後の発展を見守っていただきながら、一層の御指導と御協力を賜わりますよう御願い致します。

この度発足しました此の協会は、各種研修会、或いは親睦会等種々の事業を通じて各会員（業者）の発展を期し、協会が大きく成長して行くことを祈ってやみません。

顧りみますに、今を去る4年前、全国測量業協会中国支部の創立10周年記念の式典がありました。そのときの広島県内会員は30数社でありましたが、今日の会員数は70社に達しようとしています。戦後誕生しました此の企業が

日増しに大きく成長しましたことは、大変喜ばしい事でございますが、世の変動により悲しい事態が起きないように全員力を合せて努力しようではありませんか。



## 偶 感



中国測量(株)社長

栗 栖 一 登

世界の情勢多岐多難な現今、日本においては産業の構造転換を考慮すべきとき、わが測量業界も既成組織を改組して、地域社会を中心とした協会が力強く結束されたことは誠に意義があり、今後の活躍を大いに期待するものであります。

「国敗れて山河あり」と申しますが、戦後の荒廃した国土が復興され、先進近代国家へと成長した現在の、都市・交通・河川等々をみると、驚嘆すべきものがあります。

私ごとで恐縮ですが、戦時中、陸地測量部に陸軍技手として奉職以来、30有余年の間この道に微力を捧げることが出来ましたことに深く感謝すると共に、業界の一員として感慨無量のものを覚える次第であります。

業果の組織も無く、官公庁はすべて直営であった当時、報酬は人夫的出面精算で勤務し、作業は早朝より午前2時、3時までした当時のこと、交通網は不整備で、勿論自家用作業自動車等は夢の時代のこと、物資はなく、測量機器等役所で借りて作業した当時のこと、寸暇を割いて外注方をお願いして役所廻りをした当時のこと等々、偲べば限りなく走馬燈の如く思い出されますが、幸いにして逐次御理解を賜わり、昭和36年測量法の改正をみ、正式に測量業者としての道が開かれたのであります。

当時僅かな業者でありましたが、結束して当地方に中国測量業組合を組織し、全国的には社団法人全国測量業協会が発足、その下部組織として中四国地方の業者で中国支部が発足し、近年は県単位の協議会と変遷しましたが、この度こ



ここに社団法人広島県測量業協会の誕生をみるに至り、測量業の最終基盤も確立され、会員数も60数社に発展したのであります。

今後とも社会の趨勢に応じ、業界内外の諸問題について、対処すべきことも多々ある様に思われますが、会員各位の強力なる団結と協調により、歩一歩と解決をはかり、一層の御活躍を期待して、業界並びに地域社会の発展に寄与せられることを、希い願う次第であります。

私見で恐縮ですが、今後の問題点の若干を列記して、会員諸賢の資に供したいと思えます。

1. 会員の協会である認識（下意上達の運営活動）
2. 業界内の体質改善向上（技術の近代化，レベルアップ，社会的地位の向上）
3. 業の安定成長の方策（将来共事業量の継続的確保，公共投資の増大運動）
4. 作業量の分配，受注の公正化（共存共栄の方途）
5. 近代労務に適応した報酬額の適正化（労働条件，作業歩掛等の再考）
6. 後継幹部要員の育成（業界育成，有能社員の将来）

以上

# 新入社員教育について

復建調査設計株式会社

社長 松村 恭二

## まえがき

企業は人なりと申しますが、去る3月末、わが社では社員歴3年前後の者が数名転職方を申し出て、辞表を提出しました。折角一応の経験をつみ、技術を身につけて、わが社の戦力としてその活躍方を期待していましたのに、甚だ残念至極であります。仕方なく認めた次第であります。

会員各社でも、新入社員に社員としての心得を夫々教育に苦心して居られることと存じます。新聞・雑誌等に各種企業での新入社員訓示等の記事が掲載されて居りますが、わが社の私のあいさつ措辞で恐縮ですが、ご一読賜わらば幸甚に存じます。

## 挨拶要旨

皆さんは、本日よりわが社の社員として、即ち社会人として第一歩を踏み出されたわけであります。私共は、皆さんの入社をお待ちして居りました。わが社にとって、新しいエネルギーを迎え得たと感じ、今後を期待する次第であります。3月30日からの入社訓練で、復建社員としての心得について種々講習を受けられたことと思っておりますが、職場の心得と実務の基本を是非身につけていただきたいものであります。

今回入社されました皆さんは、夫々出身学校の推薦により入社試験に合格された学業・人物ともに優秀で誠実な方ばかりですが、青春の意気盛んなうちにも新しい環境に一抹の不安な憶測をされるものがあるかと推察致しま

す。

現在、わが国は国際的にも、国内的にもいろいろむづかしい問題を抱えて居り、変転極りない社会経済の厳しい折柄、今後この難局を切り開いて行くために、企業として立派な人材を迎えるのは当然なことであります。

皆さんは、本日から働いて給料をもらう身分になった訳です。学生時代は家庭からの温い配慮によって多額の学資をつかい、同年配の人々と共に「学ぶ」という目的のため、諸先生より授業を受け知識或いは技術を学び、社会人となるための準備をしたのであります。勿論校風や学則もあるし、毎学期毎に試験があって失敗すれば本人だけが減点されますが、いぜれも勉学のためのもので個人が中心でありました。これに対し、職場生活については諸先輩の話にもありました通り年齢、知識、技術、経験、性格等が違ういろいろな人々と一諸になって自分の生活のため、又社会発展のため、積極的に全能力を発揮して仕事をすると所であります。万事勝手が違う世界に入られた訳でありまして、石の上にも三年という言葉があるように忍耐と努力が必要です。

毎日の仕事をするに当たっては、やる気をもって働いて下さい。偶々不慣れのため、ミスをするかもしれませんが、必要以上に失敗を恐れることはありません。非を認めたら卒直に詫び、理屈をつけて弁解する事は不要であります。但し、同じミスを繰返しますとその人の業績に影響するばかりでなく、職場の同僚或いは上司に迷惑を及ぼし、ひいては会社全般に悪い結果を来すこともあります。従って、仕事では常に満点が要求されます。つまり、社会では、毎日が試験だと思って注意して下さい。

人生に於いて職場生活は一つの生存競走でありまして、特にわが社のように技術や知恵を提供して報酬を得てなりたつ建設コンサルタント企業と致しましては、技術革新の時代、業務を通じて自己の専門技術或いは知識の向上

を常に心がける人と、安易にその日を過す人とでは5年、10年後には格段の能力の差が生じます。皆さんが学校で修得されたものは基礎的な学問知識であって、今後は自己啓発のため、幅の広い勉強が必要であります。然し会社では才能がある社員にみられても、教養が無く他人から気嫌いされたり、私生活にダラシ無い人では社会人として通用しません。

併せて、わが国の建設コンサルタントは欧米諸国に比較して業歴浅く、社会的認識も低調なものがありますが、逐次その重要性が認められ、業界としてその未来には明るいものがあります。その大きな前提として、信頼される高度の専門技術能力が必要であります。

更に、建設コンサルタント業務に関連して、種々の国家試験等が実施され資格づけされております。即ち、技術関係では技術士、測量士、施工管理技士、地質調査技士、製図士等の試験、又事務関係では税理士、簿記、珠算、タイプ、自動車運転等の試験があります。皆さんが各種の講習会、研究会等に参加し、又仕事を通じて勉強され、受験合格の上、資格を得られた場合、その資格をもって業務を遂行されるときは、原則として毎月所定の手当を出しております。

現在の社会では、昔10年、20年かかって変化したことが1年、2年位のスピードで変わって行きます。新しいものの考え方、新しい技術及び理論がとり入れられます。

このように激動する転換に順応していくためには、やはり人並以上の努力、新技術の習得、世の移り変りを見透す力の養成に加えて各人の人格をより一層高め、仕上げてゆく心構えがあつてこそ皆さんの将来への道が輝しく開けていくものと思います。どうか希望と勇気をもって前進して下さい。

皆さんは自分の生活のため、会社のため、又地域社会のために仕事をなさるわけですが、仕事をする場合責任ある態度が要求されます。仕事をするに

当たって、ただ漠然とやっているとよい成果は望めません。ムリ・ムダ・ムラを生じないように気をつけましょう。そのためには5W1H、即ちWhy（なんのために）、Who（だれが）、When（いつ）、Where（どこで）、What（なにを）、How（どんな方法で）の6つのチェックに留意して下さい。この6つのチェックを活用しますと、手違いや抜け落ちのない計画通りの成果が得られるからであります。

次に、職場の人間関係であります。職場には縦と横とに繋がる組織がありまして、お互いが協力して仕事を進めて行くためには、各自が業務を分担して責務を果すように心がけねばなりません。

従ってチームワークが大切であり、そのためには協調と連帯の精神をもって行動して欲しいのであります。

職場生活では、国に法律があるように種々の約束ごとがあります。それが職場規律と呼ばれるものであります。既に入社訓練で説明がありました就業規則及び各種の規定をよく理解してお互いに守り、又会社の憲法とも考えられる基本理念として、社是（進取・協力・信頼）、経営方針、復建憲章及び皆さんの行動指針等が制定されております。常に、皆さんの心に銘じていただきたいものであります。

わが社は、わが国のトップレベルの経営基盤をもつ建設コンサルタントでありまして、皆さんを含めて社員総数約580名、8つの部門、即ち環境調査、測量、地質調査、設計、施工管理、営業、総務及び経理に大別しており、また出先機関として高松、大阪、福山に支社、東京、岡山、松江、下関、福岡、大分、松山及び長崎に事務所、尚、系列会社としてコンピューター関係を業務とした㈱エフ・ケー開発センターを設置しております。この8つの業務部門と11ヶ所の出先機関及び㈱エフ・ケー開発センターが密接に連携を取りながら一体となって業務を推進しますが、詳しいことは省略します。

職場生活では、自分の思うようにならないこと、或いは矛盾を感ずることがありましょう。仕事の面でも「こんな単純なことを何時迄もさせて」と思うこともありましょう。この時は、先ず自分で工夫してもっとよい方法は無いものかと解決に努力し、早く、正しく、経済的に出来る創意と工夫をすることが、皆さんが将来指導者に立たされたとき、その体験が大いに役立つのであります。どうしても理解出来ない疑問の点は遠慮なく先輩や上司に相談して下さい。私の長い社会生活体験から仕事をする際、不平を言う人に成功した人は一人もいないことを断言致します。

次に、本年は女性の方が男性とほぼ同人数居られますが、女性の皆さんは専門の技術者ではありません。女性がわが職場で働くことは、仕事を通じて現実の社会に接し、種々の経験を積んで自分の能力や人柄をつくり、ものの見方、考え方、又判断力を養うための人生修業の場であろうかと思えます。わが社の場合、女性特有の本質的柔軟さを活かした仕事をしていただきたく考えて居りますが、表面だった仕事よりも内面的なものが多いかと思えます。女性の皆さんも仕事を愛し、体験を積み、誠意をもって人に接し、又各自教養を豊かにされ、毎日の生活に影日向なく、情熱をもって事に当ることが皆さんの最も美しい姿であろうかと存じます。

最後に、皆さんの健康のことです。会社員にとっては、身体が財産であります。どんな秀才でも病欠勤では何の役にも立たないばかりでなく、仕事が協力作業を必要とするため、職場では大変迷惑を被るからであります。生活を規則正しく、職場の規律を守り、事故や怪我のないようにして下さい。

皆さん、どうか健全な身体をもって仕事に「生きがい・働きたい」を感じ、意欲的に業務に精を出し、立派な社会人として地域社会に貢献し、わが社の発展に寄与していただきたく念願して私の挨拶とします。

## 念には念を押し

社団法人 日本測量協会

測量技術センター中国連絡所長

田村善四郎

はじめに

この度、(社)全国測量業協会中国支部広島県協議会が発展的解消のもとに、(社)全国測量業団体連合会中国地区協議会、(社)広島県測量業協会に改組発足の運びとなり、創刊記念号を発刊されますことは、誠に意義深く慶賀の至りと存じ心よりお慶び申し上げる次第でございます。

何事によらず、事を成し遂げ、生み出すという事は至難なことで、企画・立案・実行・成立までの段階における各委員や役員の方々の、本業を顧りみる暇もない位の並々ならぬ奉仕のご活動には只々頭が下がり、業界の向上発展を祈念し且つ国家・社会のため貢献しようとする尊いご意図とご努力に対し、衷心より敬意を表させていただきます。

### ◎念には念を押し

この機会に、誠に僭越ではありますが、業界のご発展を希い、些かなりともお役に立たせていただきたい意向から、日頃考えておりますことの一端を申し述べさせていただきます。

皆さまにも、多少の相違はあれ、ご経験しておられることと思われませんが、斯く申す私自身、日頃何かにつけて、念押しが足りなかったための、失敗や失策が多いだけに、痛切に自らを戒めておるわけでありませう。

具体的な例を挙げればきりがありませんが、甘い通念と申しませうか、分

ったつもりの安心感からか、また、早合点、人を信用し過ぎた結果、先入観の相違等から、今一押し、もう一度確かめればよかった、聞き正せばよかったと、悔いられることがしばしばあります。

一例だけ挙げますと、広報委員として、原稿の試し刷りを校正する場合、誤字・脱字の見落としや、校正した箇所を指摘して直さず場合、あれだけ注意したんだから大丈夫だろうと信用した結果、刷り上りを見ると直っていない。さあ大変、刷り上った数多くの枚数をいちいち訂正しなければならないというような失敗。これなどは、まあまあ、訂正した揚句、見映えが悪くなった程度で済むものの、測量業務遂行上の失敗や失策は、許す、許さんよりも、取り返しのつかない事態を招くこともありますこと故、念には念を押して、点検を確実に、慎重に事を運んでいただきたいものと念ずる次第であります。

念者の不念ということばがありますように、慎重に物事を考える人でも、時により、うっかり失策をすることもあると申されます。

何ごとによらず、ルーズなやり方をせず、締めくくりの点検、確認をきびしくするようお互い心に刻み、気をつけましょう。



# お　ら　が　春

平和地下開発㈱

高　島　勝　士

太陰暦においては、大体新年は即ち新春であった。従って、春という言葉が、新年と同義にも用いられた。太陽暦の今日となっても、新年の意義の春という言葉が、そんなに多くはないがまだ残っている。

春とは何ぞ。年の始めなり。春は天地開闢の端、養生の首なり。また、春をはると訓ずるのは、晴るるという義なり。陽和至りて空うららかに、日もいる暉き晴るるなり。と、俳諧の古書にある。

さて、積年の念願ようやくここに叶い、私たち広島県内の測量業者の協会が、県知事の許可により、社団法人として雄々しく呱呱の声をあげ、前途の遙かきときびしさは覚悟の上でいま大海原に進水した。

時に舞台は正に春。交わすご同慶の祝杯を左手に持ち替え、おらが春にちなんで先人の春を詠った作品にご登場の乞うとしよう。

トップは、何んといっても、「源氏物語」とならんでわが国、平安時代の女流文学の最高峰をなす、清少納言のすぐれた散文「枕草子」、冒頭の名セリフが頭に浮かぶ。

春は曙。ようよう白くなりゆく、山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲の  
ほそくたなびきたる。

(訳) 春は曙がすばらしい。だんだん白んで行って、くっきりと浮かんだ山の上のあたりの空が、少し明るくなって、紫がかった色の雲が細くたなびいているのは――。

春とくれば花、花とは桜を指す。吉野朝時代、当時の和歌四天王でもあった

兼好法師が筆になる「徒然草」に、

花はさかりに、月はくまなきをのみ見るものかは。雨に向かいて月を恋い、  
たれこめて春のゆくえ知らぬも、なおあわれに情ふかし。

咲きぬべきほどの梢、散りしおれたる庭などこそ、見どころ多けれ。

(訳) 春の桜はまさかりな時だけを、秋の月は一点の曇りもなく晴れわた  
った時だけを見るものであろうか。いや、そうではない。降る雨に向かって、  
雲に隠れた月をなつかしく思ったり、また家の中に閉じこもって、春がどの  
ように去ってゆくのかを知らないでいるのも、やはりしみじみと情趣が深い。  
桜を見るにも、まさに咲きそうな梢や、落花が散りしおれている庭などのほ  
うが、見る価値のある点が多い。

ところで、随筆文学として、「枕草子」と古典中の双壁をなすこの「徒然草」  
の構成や成立に、前者が大きな影響を与えているが、両者を比較してみると、  
「枕草子」のほうは鋭い感覚、個性的な表現という点でまさり、「徒然草」の  
ほうは常識的で、人をあっといわせるようなものは少ないが、深みがあり、人  
間として心得ておくべき道を説き、さらに物の見かた、感じかたに対する心得  
までを説いている点でまさっている。

本職の僧侶ではなかったとは言え、出家して社会的、身分的な世俗の拘束か  
ら解放されて、自由に身を処する道を選んで生きた兼好の人生のはかなさ、す  
なわら無常観を教える仏教思想を根幹とし、これに虚無を根本として無為自然  
が一番よいとした老荘思想を配して脱俗ということを説いた「徒然草」が、広  
く日本人の国民常識書として愛読されてきた理由もここにあるといえよう。

春は眠くなる。猫は鼠を捕ることを忘れ、人間は借金のある事を忘れる。時  
には自分の魂の居所さえ忘れて正体なくなる。只、菜の花を遠く望んだときに  
眼が醒める。雲雀の声を聞いたときに魂のありかが判然する。雲雀の鳴くのは  
口で鳴くのではない。魂全体が鳴くのだ。魂の活動が声にあらわれたもののう

ちで、あれ程元気のあるものはない。ああ愉快だ。こう思って、こう愉快になるのが詩である。

先刻ご承知の、夏目漱石の代表作「草枕」の中の有名な一節。漱石はこの「草枕」を書き出す前に、「楚辞（そじ）」を読んだそうだ。これは「楚辞」の世界に自分の頭を同化させる目的でもあったが、然しそれよりも「楚辞」のけんらん豊富な語量（ごい）にふれて、自分の中に蓄積されている語量を堀り起こし、それを一々手近に待機させて用に立てるためだった。

漱石が読破した漢籍の中から、あらゆる語量が自由自在に駆使されて、あたかも大きな宝石箱をぶちまけでもしたように、実にさんらんたる世界が現出された。

次に、矢田部尚今の「春夏秋冬」と題する詩より、春の部分をご紹介する。

春は物事よるこばし  
吹く風とても暖かし  
庭の桜や桃の花  
よに美しく見ゆるかな  
野辺の雲雀はいと高く  
雲井はるかに舞いて鳴く

では、終りに私好みの俳句を掲げて結びとする。

春雨や小磯の小貝ぬるるほど 燕 村

遠山に暖き里見えにけり 鬼 城

四方より花吹き入れて鳩の海

芭蕉

永き日のはや暮れかかる回向かな

非風

梅咲けど鶯鳴けどひとり哉

一茶

## ( 主 なる 行 事 )

### 9. 30 (金) (社)全国測量業協会中国支部広島県協議会臨時総会(於広島SS倶楽部会議室)

新しい業協会の発足を見るための解散総会となる。

#### 議 事

1. 昭和52年度(4月1日～9月30日まで)事業報告
2. 昭和52年度(4月1日～9月30日まで)決算の承認について
3. 広島県協議会残余財産の処分について
4. 社団法人広島県測量業協会設立のため広島県協議会の解散について

上記議案のすべてを可決し、4年6ヶ月に亘る広島県協議会の歴史を閉じた後、前広島県協議会長並びに中国支部幹事としてご活躍いただいた、(有)大地測量事務所社長坂手康則氏に感謝状及び記念品を贈呈し、閉会した。

### 9. 30 (金) 社団法人広島県測量業協会(仮称)設立総会(於広島SS倶楽部会議室)

三隅発起人の司会により、迫田発起人代表よりのあいさつ並びに設立の経過報告があり、続いて原田利行(発起人)を議長に選出し、議事に入る。

#### 議 事

1. 議事録署名人の選任について

議長は賛同を得て、佐々木剛、竹内寛夫の両名を指名した。

2. 社団法人広島県測量業協会定款(案)承認について
3. 昭和52年度(初年度)及び昭和53年度(次年度)事業計画(案)の承認について
4. 昭和52年度(初年度)及び昭和53年度(次年度)収支予算(案)の承認について
5. 会費及び入会金額の決定について
6. 設立代表者選任について

議長は賛同を得て、迫田利行発起人を設立代表に選任した。

7. 理事及び監事選任について

議長は選考委員よりの選考結果をつぎのとおり発表し、満場異議なくこれを承認した。

理 事 荒 谷 寿 一 (株)荒谷建設コンサルタント

今 西 勇 三 今 将 測 量 (株)

大 淵 岩 雄 新 東 測 量 (株)

三 隅 英 夫 中 国 開 発 調 査 (株)

迫 田 利 芳 中 国 工 務 (株)

竹 内 寛 夫 西 日 本 調 査 設 計 (株)

岡 田 千 秋 平 和 地 下 開 発 (株)

木 村 泰 己 や ま と 測 量 設 計 (株)

佐々木 剛 (株) 陸 地 測 量

監 事 河 原 克 平 復 建 調 査 設 計 (株)

” 矢 野 弘 (株) 矢 野 測 量 設 計 事 務 所

8. 定款等軽微な変更を設立代表者に委任することについて
9. 社団法人全国測量業団体連合会入会について

上記議案はすべて可決成立した。

10. 4 (火) 広島県測量業協会第1回役員会(於事務局会議室)

議 事

1. 会長選任について

出席理事全員の互選により、迫田理事を会長に決し、議長となる。

2. 議事録署名人について

議長は、三隅理事、原田理事を選任した。

3. 副会長の選任について

議長は定款にもとづき、副会長に三隅理事、佐々木理事の2名を選任した。

4. 広島県測量業協会選出の代議員について

議長は全測連の諸規程にもとづき代議員2名の選出を要するが、この内1名は県測協の会長がこれに当り、他の1名については三隅副会長を選出した。

5. 全測連の理事選任について

岡山県測協と協議をなし、選任については会長一任。

6. 顧問及び相談役の委嘱について

議長は理事全員の賛同を得て、つぎのとおり委嘱することに決した。

顧 問 復 建 調 査 設 計 (株) 松 村 恭 二

〃 広島建設コンサルタント(株) 坂 田 静 雄

相 談 役 (有) 大 地 測 量 事 務 所 坂 手 康 則

〃 中 国 測 量 (株) 栗 栖 一 登

10. 13 (木) (社)全国測量業団体連合会第1回理事会(於東京金属会館)

迫田理事出席

議 事

1. 入会金及び会費の承認について
2. 事業計画及び予算の承認について
3. 役員を選出について

10. 13 (木) (社)全国測量業団体連合会設立総会(於東京金属会館)

迫田理事, 三隅代議員出席

議 事 : 第1回理事会と同じ

10. 17 (月) 広島県測量業協会顧問及び相談役の委嘱

会長は去る11月7日理事会で決定した顧問及び相談役四氏を訪問し, 就任の承諾を得て委嘱した。

10. 25 (火) (社)全国測量業団体連合会第2回理事会(於全測連会議室)

迫田理事出席

議 事

1. 会費について
2. 各委員会の編成について
3. 全測協の引継について
4. 名誉会長, 顧問, 相談役の委嘱について
5. 全測協時の未収金の取扱いについて
6. 会長会議開催について

11. 7 (木) 広島県測量業協会第2回役員会(於事務局会議室)

議 事

1. 議事録署名人について

議長は三隅英夫, 原田利行を選任す。

2. 顧問委嘱について



議長は参議院議員増岡康治先生の顧問委嘱について  
諮るも、全員異議なく承認した。

3. 特別委員会の設置について

議長は特別委員会をつぎの各部門に編成することに  
ついて諮るも、全員異議なく承認した。

- (1) 総務委員会
- (2) 広報委員会
- (3) 調査委員会
- (4) 渉外委員会
- (5) 綱紀特別委員会

4. 中国地区測量業連絡協議会の設置について

議長は全測連の要請もあり、ブロック協議会を設立し  
これの入会について諮るも全員異議なく承認した。

11. 21 (月) (社)全国測量業団体連合会第3回理事会(於全測連会議室)

迫田理事出席

議 事

1. 小山前会長の名誉会長推せんについて
2. 各委員会の報告について
3. 事業計画並びに予算について
4. 会費について

12. 1 (木) 社団法人広島県測量業協会設立許可申請書を広島県知事へ提出

12. 3 (土) 中国地区会長会議(於広島県測協事務局会議室)

議 事

1. 全測連本部の報告について
2. 各県測協の現況と情報について

3. 地区連絡協議会の結成について

4. 土地区画整理講習会の実施について

協議の結果、地区連絡協議会結成については各県とも賛成で、名称を全測連中国地区協議会として発足する。

12. 19 (月) 社団法人広島県測量業協会設立について、広島県知事より許可を得る。

12. 20 (火) (社)広島県測量業協会第3回役員会(於事務局会議室)

議 事

1. 全測連理事会の報告について
2. 法人格取得手続きの経過報告について
3. 全測連中国地区協議会の結成について
4. 県当局への陳情について
5. 職員研修会(青年の家)の実施について

53 年

1. 14 (土) (社)広島県測量業協会第4回役員会(於事務局会議室)

議 事

1. 設立記念祝典に関する打合せについて
2. 県当局への陳情について

1. 17 (火) 公共測量作業規程及び地積測量についての問題点の説明会(於広島商工会議所)

主 催 : (社)日本測量協会中国地方支部

後 援 : { 建設省中国地方建設局  
建設省国土地理院中国地方測量部  
広 島 県

協 賛 : { 広島県土地家屋調査士会  
(社)広島県測量業協会

官 庁 50名  
業 協 会 68名  
受講者数 : 調査士会 11名 計 133名  
そ の 他 4名

1. 20 (金) (社)広島県測量業協会設立記念式典

場 所 : 広島グランドホテル

来 賓 30名

参加人員 : 会 員 51名 計 97名

そ の 他 16名

式次第とセレモニー担当 (司会・事務局長)

1. 開 会 の 辞 (三隅副会長)

2. 式 辞 (迫田会長)

3. 来 賓 祝 辞

(1) 参議院議員 増岡康治殿 (代理)

(2) 中国地方建設局長 山根 孟殿 (代理)

(3) 広島県知事 宮沢 弘殿 (代理)

(4) 広島県議会議長 西田修一殿 (代理)

(5) 広島県市長会会長 荒木 武殿

(6) (社)全国測量業団体連合会会長 本島照雄殿 (代理)

4. 祝 電 披 露 (事務局長)

5. 閉 会 の 辞 (佐々木副会長)

式典終了後、披露の粗宴を催し盛会裡に会を閉じた。

1. 24 (火) (社)全国測量業団体連合会第4回理事会(於全測連会議室)

迫田理事出席

議 題

1. 委員会報告
2. 祝賀会の運営について

1. 25 (水) (社)全国測量業団体連合会設立祝賀会(於東京ヒルトンホテル)  
迫田会長, 三隅, 佐々木副会長出席

2. 10 (金) (社)広島県測量業協会第5回役員会(於事務局会議室)

議 事

1. 議事録署名人の選任について
2. 県測協記念祝典の報告について
3. 全測連記念祝典並びに理事会の報告について
4. 県当局への陳情について
5. 特別会費の徴収について
6. 昭和52年度(初年度)予算の補正について
7. 新入会員の申込みについて
8. 昭和53年度測量(地上)単価表の購入について
9. 設立記念創刊号(会報)機関誌発行について

2. 15 (水) (社)広島県測量業協会と広島県公共嘱託登記委員会打合せ会  
(於広島県測協会議室)

県測協: 迫田会長外4名, 公嘱委員会: 今井委員長外3名  
により, 県発注の公共事業の嘱託登記並びに測量について  
意見の交換を行った。

2. 25 (土) (社)広島県測量業協会広報委員会(於事務局会議室)

議 事

1. 機関誌の発行について
2. 講習会, 研究会の開催について
3. 未加入者の呼びかけについて

協議の結果、機関誌の発行は年4回とし、その内1回は会報で、他の3回は広測協ニュースとする。今回は会報とし、設立記念号を発行する。

3. 2 (木) (社)広島県測量業協会総務委員打合せ会(於事務局会議室)

迫田会長, 三隅副会長, 原田総務委員長, 荒谷, 矢野副委員長出席。つぎのとおり協議打合せた。

1. (社)広島県測量業協会諸規程の作成並びに審議
2. 全測連中国地区協議会発会式打合せ

3. 15 (水) 用地測量について打合せ会(於ホテルニューヒロデン)  
(10:00 ~  
12:00)

広島県土木部用地課中川係長外2名の出席を得て、県測協役員全員出席のもとに、用地測量並びに嘱託登記について県の方針に従って協議を行った。

3. 15 (水) (社)広島県測量業協会第6回役員会(於ホテルニューヒロデン)  
(12:30 ~  
15:00) 議 事

1. 議事録署名人選任について
2. 臨時総会開催について
3. 諸規定の制定について

3. 15 (水) 全測連中国地区協議会正副会長会議(於ホテルニューヒロデン)  
(14:00 ~  
15:00) 議 題

1. 役員を選任について
2. 会則について
3. 全測協中国支部昭和52年度収支決算の承認について
4. 昭和52年度(初年度)及び昭和53年度収支予算(案)の承認について

中国地区協議会役員はつぎのとおり決定した。

会 長	迫 田 利 芳	( 広島県測協会長 )
副会長	西 谷 昇	( 鳥取県測協会長 )
”	高 橋 信 義	( 島根県測協会長 )
”	松 本 清 一	( 岡山県測協会長 )
理 事	三 代 虎 雄	( 鳥取県測協副会長 )
”	陶 山 襄	( 島根県測協副会長 )
”	小 谷 誼	( 岡山県測協副会長 )
”	三 隅 英 夫	( 広島県測協副会長 )
”	佐々木 剛	( 広島県測協副会長 )
監 事	広島，岡山県測協より各 1 名選任する。	

3. 15 (水) 全測連中国地区協議会発会式

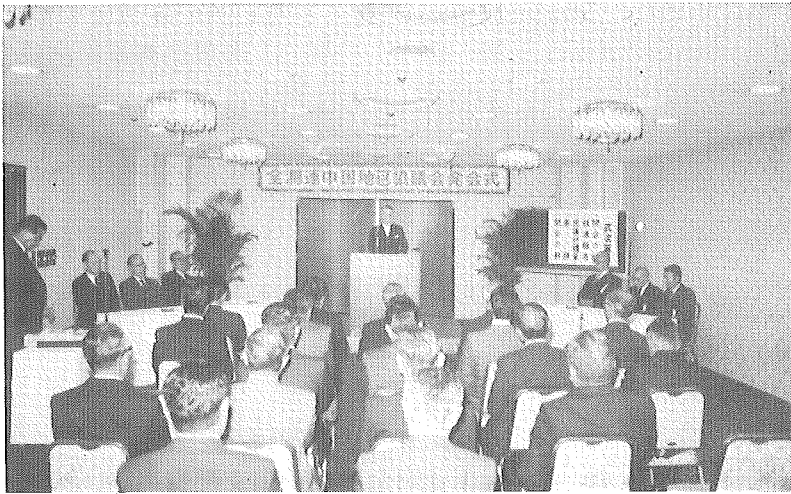
(15:00  
～17:30)

場 所	ホテルニューヒロデン
参 加 者	1. 旧全測協中国支部役員 2. 現各県測協の正副会長及び事務局長 3. 広島県測協役員
ご招待者	松村前支部長，堤前事務局長，田村前広報委員長
式 次 第	1. 開 会 の 辞 2. 経 過 報 告 3. 感 謝 状 贈 呈 4. 謝 辞 5. 閉 会 の 辞

このたび(社)全国測量業協会を改組し，各県の測量業協会を母体とした(社)全国測量業団体連合会の発足にともなって，全

国測量業協会中国支部も解散し、新しく中国地区協議会が本日  
発足、引き続いて記念パーティーを開いた。

尚、発会式には中国支部長として創立以来測量業界のためご  
活躍いただいた松村恭二氏のご功績に対し、感謝状並びに記念  
品を贈った。



3. 24 (金) (社)全国測量業団体連合会第5回理事会(於全測連会議室)

迫田理事出席

議 事

1. 昭和53年度事業計画について
2. 昭和53年度予算案について
3. 昭和53年度会費負担案について

3. 29 (水) (社)広島県測量業協会臨時総会

1. 場 所 広島SS倶楽部会議室

2. 会員の現在数

会 員 数 67名

3. 出席会員

出席者数	36名
委任状	15名
欠席者数	16名

#### 4. 議 事

(1) 議事録署名人選任について

木村泰己，荒谷寿一，2名を選任

(2) 公益法人設立に要した費用の収支について

(3) 昭和52年度収支予算の補正(案)承認について

(4) 諸規程の制定について

上記の議案はすべてを可決成立し，午後4時30分終了。



## 予 告

### 第 2 回 通常 総 会 の 案 内

日 時 昭 和 5 3 年 5 月 2 7 日 ( 土 ) 午 後 1 時 よ り

場 所 広 島 市 東 白 島 町 19-65 「 白 島 会 館 」

( 詳 細 は 後 日 文 書 で お 知 ら せ い た し ま す )

## 編 集 後 記

かねて法人化をすすめていた当協会は、昨年12月19日認可がおりたのを記念して、1月20日広島グランドホテルで催した記念式典を主体とした会報（設立記念号）を刊行いたしました。

なお、今後定期刊行物として会報は年1回、広測協ニュースを年3回発行し、広報活動をいたしますので、会員各位にはよろしくご協力くださいますようお願いを申し上げます。

( 広 報 部 )

## (社) 広島県測量業協会会員名簿

(53.3.1 現在)

会社名	代表者	郵便番号	所在地	電話	登録番号	記事
安芸測量設計(株)	下 中 康 且	739-11	広島県高田郡甲田町 下小原 3131	082645 2443	(1)-7229	
(株)荒谷建設 コンサルタント	荒 谷 寿 一	733	広島市江波西 1丁目 25-5	0822 92-5481	(5)-534	理 事
(有)新井工務店	新 井 博	733	広島市古江新町 4-8	0822 72-2956	(2)-4156	
今将測量(株)	今 西 勇 三	733	広島市観音町 1-3	0822 91-3161	(5)-703	理 事
葦陽設計(株)	篝 敬 士	720	福山市沖野上町 310-3	0849 31-1343	(1)-7270	
(株)宇部建設コンサル タント広島支店	池 田 昇	728	三次市十日市町 上原 245-1	08246 2-4999	(4)-1877	
エボン技工 調査設計(有)	仲 井 莊 朗	721	福山市手城町 270	0849 23-6861	(3)-3618	
(有)片山 測量設計事務所	片 山 学	733	広島市十日市町 2丁目 6-2	0822 31-3458	(3)-3153	
(株)神部測量所	神 部 隆 明	730	広島市白島九軒町 23-23	0822 21-6695	(6)-288	
共栄測量(株)	原 田 利 行	730	広島市牛田本町 1丁目 9-11	0822 28-4250	(3)-3705	理 事
呉開発測量設計(有)	古 谷 光 廣	737	呉市吉浦本町 1丁目 11	0823 31-1155	(2)-4331	
(有)栗田工務店	栗 田 幸 夫	722-23	因島市田熊町 4540-1	08452 2-0683	(5)-827	
(株)蔵本調査開発	蔵 本 勝 博	733	広島市西観音町 15-10	0822 91-6353	(2)-4482	
(株)建設技術 コンサルタント	林 公 造	722	尾道市栗原西 2丁目 11-1	0848 23-8138	(1)-7844	
公陽産業(株)	渡 辺 良 雄	720	福山市西桜町 1丁目 5-25(栄得ビル)	0849 23-9330	(2)-4944	
五栄調査設計(株)	宮 野 浩	730	広島市大手町 5丁目 4-12	0822 43-6527	(2)-6288	
(有)西条測量	有 場 正 矩	724	東広島市西条朝日町 10-19	08242 2-2360	(4)-2381	
(有)西藤測量	西 藤 千 太 郎	739-03	広島市瀬野川町 上瀬野上中原 1597-1	08289 4-0892	(1)-6679	
(有)山陽調査開発	坂 村 昌 紀	730	広島市戸坂出江 2丁目 9-5	0822 29-5760	(2)-5175	

会社名	代表者	郵便番号	所在地	電話	登録番号	記事
三元測量設計(株)	完田充弘	728	三次市三次町1635-4	08246 2-2008	(2)-4318	
新光企画(株)	入江喜夫	722-02	尾道市美ノ郷町 三成新沖田224-1	0848 48-3331	(1)-7201	
新東測量(株)	大淵岩雄	733	広島市三篠町 2丁目5-18	0822 37-4691	(5)-1225	理事
伸明測量設計(株)	宮本明道	720-24	福山市駅家町大字 法成寺1358-5	084972 5011	(1)-8140	
(株)瀬戸内開発 調査設計事務所	今村外茂司	733	広島市大宮2丁目2-2	0822 37-0988	(3)-4185	
(株)測地社	川崎富美子	724	東広島市西条御条町 1397-2	08242 3-4541	(3)-3933	
(株)第一測量	浜田徳	733	広島市住吉町15-22	0822 43-1736	(4)-1782	
(株)大地測量事務所	坂手康則	733	広島市己斐本町 2丁目20-16	0822 73-1471	(6)-139	相談役
田部開発 調査測量事務所	田部鹿人	727	庄原市川手町207-1	08247 2-0897	(2)-6406	
(株)中央測量設計	田辺健	721	福山市引野町6097	0849 43-2612	(1)-7996	
(株)中建センター	雲雀琢真	733	広島市庚午北 2丁目4-1	0822 72-1454	(2)-6835	
中国開発調査(株)	三隅英夫	733	広島市舟入南 1丁目10-20	0822 91-1421	(5)-773	副会長
中国建設 コンサルタント(株)	益正幸	730	広島市牛田早稲田 1丁目8-19-201	0822 22-6567	(2)-5582	
中国工務(株)	迫田利芳	731-01	広島市佐東町 八木3090-4	082873 2069	(5)-1523	会長 (全測 連理事)
中国施設設計(株)	中井正一	730	広島市上大須賀町 1-25	0822 61-4379	(6)-145	
中国測量(株)	栗栖一登	730	広島市東白島町 16-25	0822 21-3903	(6)-222	相談役
中電技術 コンサルタント(株)	村田清逸	734	広島市出汐2丁目 3-30	0822 55-5501	(5)-1390	
(株)東陽技建工業	吉原建男	720	福山市新涯町四1丁 卜251-4	0849 53-5358	(2)-5436	
十神設計(株) 三次営業所	福間義公	728	三次市十日市町 新町2596-3	08246 2-2934	(1)-7443	

会社名	代表者	郵便番号	所在地	電話	登録番号	記事
徳永技建工業(株)	徳永四郎	721	福山市曙町 3丁目191-3	0849 53-5752	(2)-5497	
西日本測量(株)	福吉邦弘	730	広島市曙町 2丁目27-3	0822 63-1241	(2)-5336	
西日本調査設計(株)	竹内寛夫	730	広島市光町 2丁目1-24	0822 63-3636	(3)-2972	理事
日本航業(株)	大谷内強吉	733	広島市観音新町 4丁目10-2	0822 94-5560	(6)-372	
広島建設 コンサルタント(株)	坂田静雄	733	広島市西川口町 12-12(光ビル)	0822 32-3241	(6)-476	顧問
(株)広島航測 コンサルタント	山上清	733	広島市三篠町 2丁目8-1	0822 38-1841	(3)-4059	
(株)広島測量	友則雅裕	724	東広島市西条町大字 西条東841-1	08242 2-2556	(6)-477	
復建調査設計(株)	松村恭二	730	広島市光町 2丁目11-31	0822 62-5151	(6)-115	顧問
(株)富士工業 コンサルタント	福田正輝	720	福山市沖野上町 6丁目100-1	0849 23-6518	(1)-8519	
富士測量(株)	白神正雄	730	広島市牛田新町 1丁目14-17	0822 28-6886	(2)-4730	
(株)富士土木設計 広島事務所	小山登	733	広島市横川町 2丁目5-15	0822 91-9223	(1)-6902	
富士調査設計(株)	多田克明	731-02	広島市可部町大字 中島618-2	08266 4-8741	(3)-3066	
(株)古川測量 広島支店	永瀬正美	733	広島市三篠 3丁目19-1	0822 37-1482	(4)-2233	
平和地下開発(株)	岡田千秋	720	福山市多治米町30	0849 53-2721	(4)-2671	理事
(株)マトック コンサルタント	得本忠彦	722	御調郡向島町 2339-2	0848 22-4898	(2)-5234	
(有)三沢建設 技術事務所	洲沢昭己	729-62	三次市向江田町 4252-2	08246 6-2281	(1)-8453	
(有)三次測量	小南孝晴	728	三次市青河町 1123-1	08246 8-2343	(1)-8765	
(株)峯岡測量設計 事務所	峯岡専	722	尾道市栗原町 6023-12	0848 23-7711	(1)-7203	
陸土木 エンジニアリング(株)	唐崎道雄	730	広島市中山町60-29	0822 89-1262	(2)-5705	

会社名	代表者	郵便番号	所在地	電話	登録番号	記事
明伸建設 コンサルタント(株)	渡子秋信	733	広島市観音本町 1丁目4-12	0822 91-3141	(2)-4866	
元広測量設計(株)	元広弘旭	720	福山市御門町 2丁目3-2	0849 23-5262	(1)-7640	
諸星産業(株)	諸星隆	731-01	広島市安古市町 中筋448-1	08287 7-1345	(4)-1530	
(株)八雲建設コンサル タント広島事務所	野村篁三	730	広島市上大須賀町 13-26(笠井ビル)	0822 63-7771	(6)-263	
八千代測量	小野哲哉	731-03	広島県高田郡八千代町 勝田大字中山	082652 2204	(1)-8794	
(株)矢野 測量設計事務所	矢野弘	730	広島市牛田東 3丁目27-13	0822 27-2722	(3)-4131	監事
やまと測量設計(株)	木村泰己	730	広島市紙屋町 1丁目6-2	0822 47-4774	(3)-2760	理事
ヤマトプランニング(株)	吉田武	733	広島市堺町 2丁目5-1	0822 92-4746	(2)-6728	
(株)陸地測量	佐々木剛	724	東広島市西条 大坪町1308-3	08242 3-2627	(5)-876	副会長
若築建設(株) 中国支店	佐藤昇	730	広島市紙屋町1丁目 3-2(住友銀行広島ビル)	0822 48-1810	(5)-1283	

